

## 指定管理評価表(中央南生涯学習プラザ)

令和2年3月31日現在

施設概要	尼崎市立中央南生涯学習プラザ(尼崎市西御園町93-2) 開館時間:平日9:00~21:00(休館日:月曜日、年末年始) 施設設置目的:教育基本法(平成18年法律第120号)第12条第1項の規定により奨励されるべき社会において行われる教育その他の生涯学習の拠点及び自治のまちづくりを支える拠点の提供 事業内容:中央南生涯学習プラザの使用に関すること及び施設の維持管理			
指定管理者の名称	公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団			
指定期間	平成31年4月1日~令和4年3月31日			
業務概要	中央南生涯学習プラザの管理業務(①使用の許可、取消し等施設の使用に関すること②使用料の徴収、減免及び還付③施設及び備品の維持管理④施設及び備品にかかる1件50万円未満の補修工事及び修繕⑤利用状況等統計、その他)			
利用状況等	項目名	令和元年度	平成30年度	平成29年度
	貸室利用者数	45,502 人	76,228 人	73,738 人
	貸室稼働率	30.56 %	33.15 %	33.87 %
	自主事業開催数	39 回	35 回	29 回
	自主事業参加者数	4,437 人	4,842 人	3,604 人
所管課・所管課長名	総合政策局中央地域振興センター中央地域課・北 明德			
評価対象期間	平成31年4月1日~令和2年3月31日			

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 サービスの質の維持・向上		<b>A</b>	12の生涯学習プラザの始動に伴い、館の運営や事務等の細かい変更に対応に臨機応変に対応された。中でも変更の影響を受ける利用者への対応は、市と連絡調整を行いながら慎重かつ迅速に行われ、トラブルを避けられた。自主事業についても新規利用者の獲得に向け積極的に見直しが行われ、令和元年度は39事業が実施された。
自主事業・指定事業	計画に沿って、積極的に自主事業・指定事業に取り組んでいるか		
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか		
施設利用者数	施設利用者の掘り起こしがされているか		
利用者要望の把握	利用者要望の把握がされているか		
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか		
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか		
2 適正な施設の管理		<b>A</b>	災害や事故の他、応対や事務から起こり得る危険についても想定し、マニュアルを作成している。老朽化の顕著な施設であるため、設備等の知識の少ない利用者が安全に施設を利用できるよう、定期的に施設の点検を行い、限られた予算の中で優先順位を考え修繕が行われている。
施設保守・管理	施設の保守、管理が適正に実施されているか		
職員体制	合理的な配置か、責任体制が整った配置か		
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか		
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか		
職員研修	職員研修が十分に実施されているか		
3 収支・経費節減		<b>B</b>	節電等、日常の細かな節減の取組が職員に徹底されている。館内の備品が散在していることがなく、適切な管理がされている。
収支状況	収支の状況が適正かつ良好であるか		
経費節減の取組	経費節減の取組みがされているか、		
4 指定管理者の経営状況等		<b>C</b>	指定管理者監査において、報告内容の一部に誤りが認められたため、事務手続きを適切に改めること。
会計状況	適正な会計手続きがなされているか(監査報告書等による)		
経営状況	経営状況は良好か(貸借対照表、損益計算書等による)		
5 その他		<b>A</b>	定期的な備品点検が行われている。生涯学習プラザへと変わったことによる報告様式の変更にもすべて対応されている。
文書等の管理	文書類、帳簿、備品、資料等が適切に管理されているか		
評価の実施	内部評価を実施しているか		

指定管理者選定に係る事業計画書の主な取組内容	左記に関する取組状況とその取組に対する評価
発表・交流の場提供(サンビックまつり)、ロビー展示、地域資源と地元市民が活きる魅力発信(寺町ウォーキング、てらまち講座等)、指定管理者の得意分野を活かした事業(介護予防教室、子育てママのリフレッシュ講座等)、地域課との共催事業考案、令和2年度以降に予定される工事に向けた調整等	市の新たな取組を理解し、生涯学習プラザや地域課の役割を考慮した自主事業の考案や、予定される大規模改修工事に合わせた施設の改良に積極的に取り組まれている。その一方で、これまでと変わりに施設を利用する利用者に対し、新たな取組や体制により不便が生じないようにケアを行うため、日頃から利用者の話を聞く姿勢が職員に徹底されていることは利用者アンケートの結果からもわかる。経年劣化による施設内設備の不具合は前年度に続き多数発生しており、その都度利用者の安全確保と、限られた予算のなかで緊急性の高いものを優先した修繕工事が行われている。

総合評価	総合評価の理由、今後の課題等
<b>B</b>	令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンセルが多かったことや、夏期に空調機の工事を行ったため、利用率は昨年度に比べ下がっている。その中でも、利用者への気配りや安全の確保、新たな自主事業の考案や施設の改良によるイメージアップを図る等、利用者獲得への取組が積極的になされていた。また、今後予定されている大規模改修工事期間中に利用者が離れてしまわないよう取組が必要であり、指定管理者も既にそれを認識している。ただし、令和元年度の監査で、会計報告の内容の一部誤りが見られた点については事務手続きを改めてもらいたい。

※ 評価は、A~Eの5段階評価とする。

※ 確認調査の結果をチェックリスト等に記入する。更に1~5の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

※ A:非常に良好である又は非常に成果があった。 B:やや良好である又はやや成果があった。 C:取組状況の水準が普通である。

D:やや改善の余地があった。 E:多くの改善すべき点が見受けられる。